

会議録

会議の名称	令和4年度第4回教育計画策定懇談会
開催日時	令和5年1月23日（月曜日）午後1時から
開催場所	西東京市役所イングリッシュビル3階第3・4会議室
出席者	<p>【委員】種村座長、川原副座長、竹之内委員、瀬沼委員、竹田委員、西原委員、鈴木委員、小林（宏）委員、小林（正和）委員 （欠席）落合委員、宮本委員、菅野谷委員、荘委員</p> <p>【事務局】松本教育部長、清水教育部特命担当部長、掛谷教育部副参与兼教育企画課長、名古屋教育部主幹、近藤学務課長、山縣教育指導課長、田中教育部副参与兼教育支援課長、吉田社会教育課長、福所公民館長、徳山図書館長、佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、高枝教育企画課企画調整係主査、今中教育企画課企画調整係主事、望月教育企画課企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】2人</p>
議題	<p>議題1 計画策定におけるアンケートの単純集計（速報）について</p> <p>議題2 計画策定におけるヒアリング調査の実施状況（中間）について</p> <p>議題3 中央教育審議会教育振興基本計画部会の審議経過について</p> <p>議題4 次期西東京市教育計画に向けた重点項目について（懇談）</p> <p>議題5 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 教育に関するアンケートの指標項目について（中間報告）</p> <p>資料2 西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査（中間報告）</p> <p>資料3 次期西東京市教育計画（令和6～10年度）に向けたこれまでの意見の整理</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><開会></p> <p>1 計画策定におけるアンケートの単純集計（速報）について</p> <p>○座長 事務局より、資料1「教育に関するアンケートの指標項目について」の説明をお願いする。</p> <p>○事務局 （資料1について説明）</p> <p>○座長 事務局から説明があった。質問等があったらお願いします。</p> <p>○D委員 読書離れが進んでいるようであるが、朝読書に取り組んでいる学校が多いかと思う。調査の設定ではどのように聞いているのかというのが気になる。 家で読む本という形で聞かれたのならそういうこともあるかと思う。ただ、学校の朝読書などで読んでいけば、読んでいことになるのではないか。どこの学校でも朝読書は取り組まれていると思う。</p>	

○事務局

設問は「1ヶ月に平均何冊ぐらい本を読みますか。」という設問で、朝読書では読んでいるが、1冊読み切れていないケースもあると思う。

○G委員

確認だが、青少年調査の対象は何歳か。

○事務局

9月1日時点での15～19歳を対象としている。

○B委員

読書離れということだが、新型コロナウイルス感染症の関係で、運動の方はどうか。

○事務局

新型コロナウイルス感染症拡大対策で、外で体を動かすということが減ってしまったり、室内時間となってしまったりすることが考えられるのかと思う。

○B委員

読書や運動の様子を検証というのは、具体的に学校の先生から見た状況はどうかなどについても調査されるのか。

○事務局

アンケート調査に補足してヒアリング調査を実施している。ヒアリング調査の中から補完したり、アンケート自体にも自由記述があったりするので、そういったところから検証をしていければと考えている。

2 計画策定におけるヒアリング調査の実施状況（中間）について

○事務局

（資料2について説明）

○座長

質問等受けたいと思う。7ページの西東京市の教育環境について感じるものの一番上で、「学校によって経験していることが違うように感じる。」というのは学校の特色のことだろうか。

○事務局

現時点で分析が十分でないので、こういったところも併せて実際にヒアリングの場で補完して聞いていきたいと考えている。

○G委員

学校運営協議会に聞いた理由というのは何かあるのか。また、ヒアリングをされたのは何校になるのか。

○事務局

学校運営協議会、いわゆるコミュニティ・スクールが現行の計画のところで導入され始めており、次の計画でも、地域とともにある学校というところで重要になってくると考えている。そのため、今回導入している学校の委員に対して、課題等が生じているのかというところを伺っている。

学校運営協議会については、対象を小・中学校7校の協議会委員等とし、回答は会長または地域学校協働活動推進員からいただいている。

○A委員

8ページの上から4つ目、「本校のようにいじめ対策がしっかりしていることは」と書いてあるが、特殊なことがその学校にあったのかというのが知りたい。

○事務局

ヒアリングシートの表現をそのまま使用している。PTA・保護者の方の回答だが、この回答をされた方は、学校と良好な関係をうまく築けていたと感じていると推察され、このような表現になったのだろうと考えている。

○A委員

特に対策があったということではないのか。

○事務局

仕組みとしては全学校とも同様の対応することとなるが、保護者の方が特定の学校に関わっていただいている中で、このような表現となったと考えている。

○A委員

取組というのは、主にどのようなものがあるのか。PTAをされている方が、そう感じた理由に関心がある。

○事務局

いじめ問題、いじめの発生からいろいろな対応、未然防止も含めて、各学校がいじめ問題の対策の委員会やいじめにこうやって対応していくということについては各学校がきちんとホームページなどで公表して、保護者の方などに御理解いただくことになっている。

おそらく各学校でもこういった取組をすとか、ここに定められていて、いじめは絶対に許さない、いじめられている子どもを守るといった対応について明記されている。

もし保護者として御不明な点があった場合には、学校に問い合わせさせていただくと学校が説明すると思う。

最近そのようなことについては学校だよりやホームページで公表するという事になっているので、その点を踏まえてお答えいただいたPTAの方は前向きに評価していただいていると捉えている。

○副座長

西東京市なのか全体の傾向なのかは分析を進めて見ないとわからないのだが、子どもたちが穏やか、いわゆる「いい子」というのが増えてきているのかという印象を受け

た。

例えば2枚目表面の方、学校運営協議会の1番目に、「素直な子どもたちが多い」とか3枚目表面の、「あいさつや言葉づかいができ、ルール・マナーを守れる子どもが増えている」というのは傾向だと思ったのだが、一方で1枚目の裏面、「体を動かしていない子どもたちが多い」とか2枚目の、「実体験が少ない」、さらに3枚目の表面、「遊びを知らず経験していない、失敗を恐れる子が多くなった」といった面が見えてくる。

いずれにしても全体的に穏やかでおとなしい、いい子と様々な制約から実体験が少ない今の子ども像が見える。

○事務局

今回アンケートを経年の変化で見たり、自由記述、全国的な傾向等も新型コロナウイルスの関係で出てくると思っているので、そういうところも見ていきたいと思う。

○座長

タブレットなどの活用について、西東京市の取組が先進的なものであれば、さらに充実していくという考えもある。タブレット活用を各学校で共通してやるものはあるのか、それとも各学校の特色を出していくのか、その辺も検討していく必要がある。

3 中央教育審議会教育振興基本計画部会の審議経過について

○事務局

(参考資料1に基づいて説明)

○座長

審議経過の報告ということで、事務局から情報提供があった。引き続き、国の動向を踏まえながら検討を進めていきたい。

4 次期西東京市教育計画に向けた重点項目について(懇談)

○事務局

(資料3に基づいて説明)

○座長

基本的な情報を伝えると、現在使われている学習指導要領が平成29年3月に告示され、すぐそれに基づいてやるのではなくて移行期間が3年くらいあって、小学校は今年度で3年目、中学校は2年目、高校が今年からということで、学習指導要領というのはだいたい10年刻みで改定されている。

前は9年だったが、平成29年に出されたということは5年くらい経っているわけで、結構経っている。そうすると4～5年後には次の学習指導要領が告示をされるという状況の中で、もしかしたら次期計画の計画期間内に今の段階で学習指導要領にないものも国が入れてくるかもしれない。

国の方針や学習指導要領に基づく部分も必要だが、西東京市として重要なことをしっかり出しておく必要がある。

○C委員

学校の指導要領が10年で変わるというのを改めて聞いて、西東京市らしく、私たちは

これでという理念や基本方針をこの場で固めていくことは非常に意義があると感じた。

これまでの懇談会の議論を踏まえると、大切なことの1つは、リアルとデジタルの調和にあるように思う。西東京市の先進的なデジタルの取組を伸ばしつつ、リアルな体験を子どもたちにはしてもらいたい。

デジタルも大事だが、西東京市の風土を生かした、西東京市に誇りを持てる子どもたちを人とのつながりの中から育てていくことが必要だと思う。

先日テレビを見ていて、どこかで体育館にその土地の町おこしをした人の肖像画がかかっていたのだが、子どもたちは、地域との交流の中で肖像画の人物について人となり理解しているようで、取材に対して肖像画の人物について話をしていた。その様子を見て、こんなに小さな子どもたちが地元のことをここまで語れるのかとうらやましい部分もあった。

西東京市らしさを失わないようにしていくことが、こういう時代だからこそ大事だと思う。

○座長

ぜひ西東京市ならではの、こういうものを重点にやっつけようというものがあればいいと思う。

○D委員

子どもたちがリアルに動く、リアルに学ぶ実体験が減っているという話の中には、環境の変化もあると思う。子どもたちが自由に遊べる場所が少ない。リアルとデジタルの調和という中で、子どもに必要なものは何かというのを共有し、計画の中に盛り込んでもらえると思う。

マルチメディアデিজリーなどすごく役に立つものが開発されてきていて、それを使うことが特別なことではなくて、一人ひとりの違いを認めて、その人らしく生きていくことが大事だという教育ができていくと良いと思う。

経済的なことだけではなく家庭を含めた様々な環境の中で子どもが子どもらしく過ごせていない現実もある。そういう方はおそらく学校教育だけではなく、それ以外のところで学ぶ場所や学べるチャンスが必要だと思う。それも生涯教育につながっていくのだと思う。西東京市はとても社会教育が進んでいる土地だと思うので、ここも学校教育とともに計画の中に、これまで同様盛り込んでいただきたい。

○座長

最先端の教育はもちろんだが、それによって課題が出てくるのでその視点もしっかり持ちながら進めていくことが大事だと伺ったように思う。

○A委員

デジタル機器が出てきてそこに視線が行ってしまうというのは多いと思う。デジタル機器を人間が使っていくという土台ができてきたら、初めて自分がデジタル機器を使ってこれができるという充実感が繋がっていくと思う。体を動かすなど、リアルな体験も大事にしたいというところもある。デジタルについては、うまく使って欲しいがそればかりにならないでも欲しい。

○座長

資料3の次世代を担う子どもの姿の2つ目の「学校の中でも学校の外でも「主体性」を持つことが必要である」についてだが、主体性の中には子どもたちは自分たちがしっかり目的を持って使えるように、デジタルを使わされているのではなく、デジタルを主体的に使っていくということがとても求められているのではないか。

目的をしっかり持って主体的に使えるようにしていくというお話であったかと思う。

○B委員

リアルというものがベースにあって、はじめてその課題をどうデジタルで解決するかという話だと思うので、小さい間はやはりリアルというところをいかに育てていくか、その先にデジタルの利用のことを学びながらどう現実の課題を解決していけばいいのか、そういう段階を経てやっていくべきだと思う。

そしてリアルを基本にデジタルの力を使って、身体に障害のあるなしに関わらず、多様性の中で、全ての人や子どもたちが一緒に学習していく環境を作っていければ良い。

○G委員

子どもには体を使って遊ぶというのがすごく大事なことだと思う。

西東京市のように地価が高くて都会だとそういうことは望めないと思うのだが、のびのびと遊べるような環境を用意できるなら、確保してあげて欲しい。

西東京市が誇れることは何かと考えた時に人口が多いというところは、特色だと思う。農家、大学教授、音大の音楽家ということで地域人材は豊かなものがあると思うので、そういう人たちに学べるチャンスというのは、もしかしたら西東京市の子どもたちの財産かとも思う。

今後はそういうところも含めて放課後子ども教室や学校と地域の連携をして欲しい。

○I委員

教育というのは常に不易と流行の両輪である。

委員のお話を伺ってもやはり土台となる不易の部分は改めて西東京市の子どもたちにとって何が大切なのか考える必要がある。

それを踏まえて子どもたちにどういった形で我々大人が、学校では教育環境をどのように進めていくかなのだと思う。

現行の教育計画が平成29・30年度に作られた頃には、タブレットが勉強道具になるという感覚はなかったと思う。それがいわゆる流行の部分で現在、取り込まれている。今こうやって次期計画の5年間を考えても、いろいろな流行が入り込んでくる。しかしながら、流行が環境を変えることになっても、だからこそ、計画の検討に当たっては、各委員の理念を入れながら大切な土台の不易の部分と一緒に作っていくことが重要であると思う。

○F委員

簡単な計算なのに取り残されてしまっている、クラスの中で見落とされている子どもがいた。こういう子どもにはプリントを渡して、やりましょう、やってきましょうと言っても進めない。

誰一人取り残さない学びのところで、学校の内外を問わず、現場の先生方などがそのような子どもを見つけて、なんらかの支援ができると良い。コロナ禍以前なら学校で放

課後に残ってもらって教えることなどで支援がされていたように思う。

新しい時代に合わせた誰一人取り残さない学びを考えたい。

○副座長

次世代を担う子どもの姿をどう考えていくかというのは、極めて重要な視点だと思っている。国の教育振興計画でもイノベーションの話やウェルビーイングの中でも協調的幸福という言い方をしたり、他にも主体的なというところであったり、満遍なく意識されている。前回の計画の中では生きる力を強くするという方針があったが、今回は次世代を担う子どもの姿の中で、子どもに期待するビジョンというものが見えてくると良いと思う。

○座長

中央教育審議会の資料によると、日本社会の幸福感とか自己肯定感というのは他国と比べると非常に低い。例えば勉強ができるとか何かができる、お金があるだけではない何か違う要素があるのだろう。

基本方針3のところにも「家庭教育への支援を充実させる」とあるが、この辺も、協調的なウェルビーイングに実は関連しているのではないか。

地域と学校、家庭が一体となって、子どもたちに日本や西東京市で生きて良かった、幸せだと感じるように計画を議論したい。

○G委員

先ほど意見のあった、子ども一人ひとりに目が届きにくいというところが日本の教育の最大の欠点だという気がする。文部科学省から出ているところでも、第3期計画期間中の教職員定数改善となっているが、多くの子どもを一斉に先生が見ているという現状だとなかなか細かいところに手が届きにくいかという気がする。

だからと言って西東京市で何とかするというのは難しいと思うが、それを補足できるような形のシステムを考えられないか。目が届きにくい子どもたちに手を差し伸べながら生きる力やいろいろなスキルを身につけてもらうということが求められているのかという気がする。

○D委員

勉強なんかできなくてもいい、勉強が全てではない、とって終わらせてしまうことがある。ただ、人にとって最低限必要な学力というのはあり、多様性の中にあっても、勉強が分かって楽しい、大人になった時、身につけていて良かったということはある。基本を身につけてもらう、獲得してもらうことも義務教育の大切な部分だと思う。

基本的な部分については、どの子どもにも必要な学力が身につくような仕組みを作っていないといけないと思う。それがないと将来、学び直しやスキルアップをしようとした時に成長した子どもが途方に暮れてしまう。

○A委員

自己肯定感の部分で、自分の能力を集団の中で比較して見ることで自分の自己肯定感を保っているのではないかと思うことがある。

それだと多分、上には上があるのでいずれ壁に突き当たり、自己肯定感が満たされないままということになってしまう。

また、子どもたちが地域の中で大人が自分を見守っていると感じるという割合が少ないと思った。実は周りに大人がいるというのが子どもたち自身には伝わっていないのではないか。

大人にしても地域や子供たちのために、どこかで自分が役に立っているということが自分の自己肯定感を保つ一つの役に立っていると思うので、大人の子どもへの関わりをもう少し強くしていくことは、大人にも子どもにも良いのではないかと思う。

子どもも大人も人との関わりの中で自分の役割を体感することが大事かと思う。

○C委員

資料の中で一番大事だと思ったのはウェルビーイングに関することである。

私は、1歳・2歳の人間から20歳、その上の社会人まで、いろいろな世代の方と関わっているが、誰かに必要とされることについて、Z世代に当たる若手の職員に対して感じることもある。

Z世代を見ていると責任を一人で負う担当を振られると尻込みしてしまうが、みんなでチームになって1つのことをやる場合には、力を発揮しているように感じる。だからと言って、社会人として一人で責任を負わなければならないこともあるのでそこを伸ばして欲しいと思うこともある。

主体的で責任をもってやり遂げる達成感と協働の中に幸せを見いだせる両輪の考えがこれからの子どもたちにも必要である。誰かのために尽くす、誰かのために一生懸命頑張るという幸福感というのは絶対にこれは外してはいけない。協調的幸福をうまく計画に盛り込めればと思う。

また、同じ世代だけではなく地域のいろいろな世代の方々とも協働して活動することで関わった人、全員が協調的幸福を得られるような取組ができればと思う。

学校での活動か、地域での学びか、それとも何か行事をやっていくのかなどいろんなことが考えられるが、地域のために生きがいをお互いに与え合うということは、我々日本人の強みでもあるのではないか。

○座長

今回はここまでとする。発言のあった内容を事務局の方でまとめることをお願いしたい。

5 その他

○座長

それでは今日の内容はすべて終わったが、事務局から何か連絡があるだろうか。

○事務局

(ワークショップ、次回会議日程についての情報提供)

○座長

以上で第4回西東京市教育計画策定懇談会を終わらせていただく。

<閉会>